



フェニックスがファンドVでハードキャップ750百万ドルを達成

発行日：2013年12月17日

記者：Jonathan Brasse

香港に拠点を置くプライベート・エクイティ不動産会社が、当初600百万ドルの調達目標を超えて資金調達を行い、機関投資家がアジアでのオポチュニスティック不動産戦略を支えていることをさらに証明しました。

フェニックス・プロパティ・インベスターズは、その直近のファンドにおいて、応募超過ファンドを有する最新のアジアのプライベート・エクイティ不動産会社となりました。

サミュエル・チュー氏とベンジャミン・リー氏により2002年に設立されたこの香港の会社は、5つ目のオポチュニティ・ファンドであるフェニックス・アジア・リアル・エステート・インベストメンツVで750百万ドルを調達しました。この総額は当初目標額の600百万ドルを容易に達成し、また設立以来最高の資金調達額となりました。

この調達額はフェニックスのハードキャップに達しており、当該限度額がなければ同社はこれをはるかに上回る金額を調達できたものと考えられております。また、さらなる投資家を受け入れるために、従来からの2%のGPの共同投資条項の廃止の検討を要請されたことも考えられますが、同社はそれを見送っております。

フェニックスのファンドが応募超過となり、同社がアジアのプライベート・エクイティ不動産会社の成長企業リストに加わったことは、ここ数年の警戒期を経て、機関投資家が再びオポチュニスティック・ファンド戦略に戻ってきたことを強く示唆しています。2014年にハードキャップを達成または超過した会社には、ガウ・キャピタル、セキュアード・キャピタル、アルファ・インベストメント・パートナーズ、メープルツリー・インベストメンツがあります。

フェニックス社は、資本調達についてはコメントしておりませんが、プレースメントグループであるモニュメント・グループによる支援を受けております。同社は20以上の投資家から資金を調達していますが、そのほとんどは同社の以前のファンドにも投資していた投資家であります。投資家には、公的および企業年金基金、財団、州寄付基金、州投資基金、富裕層等が含まれ、地理的には、欧州、米国、中東にまたがっています。

従業員数60人の同社のファンド戦略は、主として中国、香港、台湾の再開発物件や付加価値がつけられる物件へ投資することです。フェニックス社は日本でも活動を行っておりますが、同社のファンドにとって日本の市場の重要性は低くなっております。同社はファンドの投資家に対し、20%のIRRおよび2倍のエクイティマルチプルを提供することを目指しており、同社は現時点で1件の投資を実行しています。

(当該記事はフェニックス・プロパティーズ・インベスターズの翻訳によるものです)

© PEI Media Ltd. All rights reserved.

Content on this site may not be reproduced, distributed, transmitted, displayed, published or broadcast without the prior written permission of PEI or in the case of third party content, the owner of that content. You may not alter or remove any trademark, copyright or other notice from copies of the content. You may download material from this site (one machine readable copy and one print copy per page) for your personal, non-commercial use only.